

丸大食品株式会社

中期経営計画

2026年度～2028年度

2026年5月14日



1 丸大食品 2030年の目指す姿

2 中期経営計画

- ✓ 5つの基本方針と重点項目
- ✓ 2025年度振り返り
- ✓ 三カ年数値計画（2026年度～2028年度）
- ✓ 事業別戦略
- ✓ キャッシュアロケーション
- ✓ 資本コストや株価を意識した経営

3 次なる成長に向けた取組み

4 DXの推進

5 人的資本の強化

6 サステナビリティの推進

1. 丸大食品 2030年の目指す姿

目指す姿：「食を通じて人と社会に貢献する企業」



2030年
目指す姿

- ・売上高 : **3,000億円**
- ・営業利益 : **100億円**
- ・ROE : **8.0%以上**



【施策・目標】

- ・エンゲージメントスコア※ : **70%以上**
- ・人財の育成
- ・労働環境の向上
- ・人事制度改革

※エンゲージメントスコア：従業員アンケートのエンゲージメント項目におけるポジティブ回答割合



【施策・目標】

- ・女性管理職比率 : **10%以上** (2032年度目標)
- ・障がい者雇用 : **2.7%以上**
- ・男女賃金格差是正
- ・育児休業取得比率向上



【施策・目標】

- ・GHG排出量削減率 : **32%** (2022年度比)
- ・食品廃棄物再生利用実施率 : **95%**
- ・廃棄削減

中期経営計画

経営環境の変化に柔軟に対応すべく、原則として毎年改定を行うローリング方式の中期経営計画を策定し、

新たな顧客価値の創造

収益構造の改革

事業領域の拡大

人財の育成

持続可能な社会への貢献

という5つの基本方針のもと、持続的な成長とさらなる企業価値の向上を目指します。

2. 中期経営計画／5つの基本方針と重点項目

(1) 新たな顧客価値の創造	(2) 収益構造の改革	(3) 事業領域の拡大
<ul style="list-style-type: none">・顧客視点の商品開発・簡便、時短への貢献商品・社会課題に対応した商品	<ul style="list-style-type: none">・収益性を伴う規模拡大・DX、効率化,合理化の推進・資産効率の改善	<ul style="list-style-type: none">・販路の拡大・事業展開エリアの拡大・業務用商材の拡大
<p>【強み】 数多くの販路と幅広い食品の生産技術や商品開発力を活かした成長の推進</p>		

(4) 人財の育成	(5) 持続可能な社会への貢献
<ul style="list-style-type: none">・人的資本の強化・人財スキルの向上・従業員エンゲージメントの向上	<ul style="list-style-type: none">・環境課題への対応・社会的責任の遂行・リスク管理とガバナンスの充実

2. 中期経営計画／2025年度振り返り



営業利益は前年に対し20億円の増加、計画に対しても15億円上回り、2025年度は収益性の改善を進めた

■ 2025年度実績（計画比）

（単位：億円）

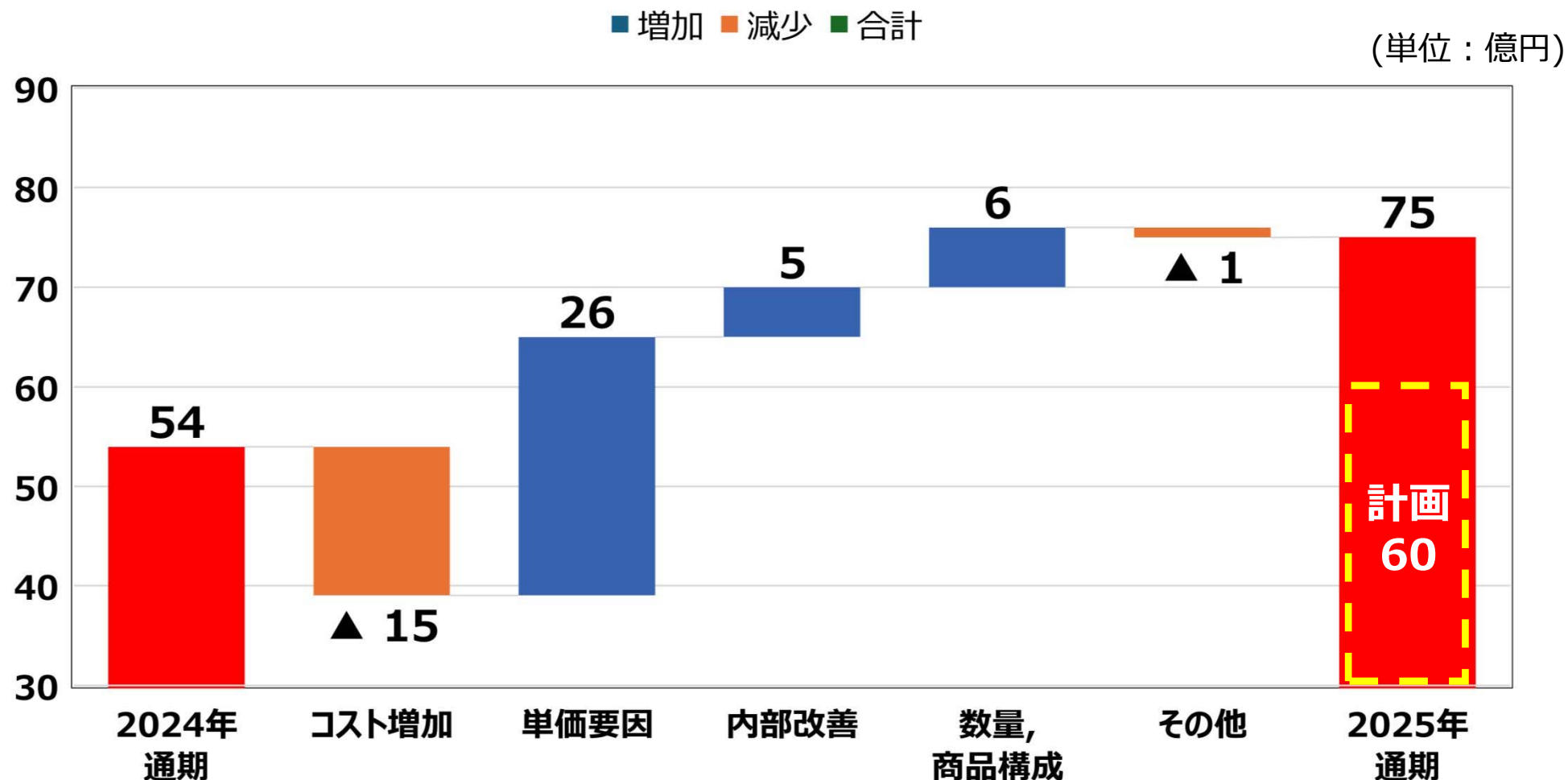
	2025年度 計画	2025年度 実績	対前年増減	計画差異
売上高	2,400	2,383	+34	▲17
営業利益	60	75	+20	+15
営業利益率	2.5%	3.1%	+0.8%	+0.6%
経常利益	64	79	+18	+15
経常利益率	2.7%	3.3%	+0.7%	+0.6%
当期純利益	48	97	+42	+49
当期純利益率	2.0%	4.1%	+1.8%	+2.1%
ROE	7.1%	13.8%	+5.2%	+6.7%
(経常ベースROE)※	(6.5%)	(8.4%)	(+2.6%)	(+1.9%)

※ 経常ベースROE：固定資産売却、投資有価証券売却の影響を除いたベースのROE

2. 中期経営計画／2025年度振り返り

原材料価格や資材料価格の高騰などのコスト増加があるも、
価格改定や継続的なコスト削減により、通期で20億円の増益

■ 2025年度 営業利益増減要因



注) 増減要因の金額は億円未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等が一致しない場合があります。

2. 中期経営計画／三カ年数値計画

■三カ年数値計画（ローリングプラン）

（単位：億円）

	2025年度 実績	2026年度 計画	2027年度 計画	2028年度 計画	対2025年度 増減
売上高	2,383	2,450	2,500	2,550	167
加工食品事業	1,605	1,650	1,670	1,700	95
食肉事業 他	778	800	830	850	72
営業利益	75	80	85	90	15
営業利益率	(3.1%)	(3.3%)	(3.4%)	(3.5%)	(0.4%)
経常利益	79	84	88	93	14
経常利益率	(3.3%)	(3.4%)	(3.5%)	(3.6%)	(0.3%)
当期純利益	97	64	60	65	▲32
当期利益率	(4.1%)	(2.6%)	(2.4%)	(2.5%)	(▲1.6%)
ROE	13.8%	8.2%	7.4%	7.6%	▲6.2%
(経常ベースROE)※	(8.4%)	(7.4%)	(7.4%)	(7.6%)	(▲0.8%)

※ 経常ベースROE：固定資産売却、投資有価証券売却の影響を除いたベースのROE

2. 中期経営計画／事業別戦略

加工食品事業

■ 三カ年売上計画

(単位：億円)

実績	中期三カ年計画		
2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1,605	1,650	1,670	1,700

ハム・ソーセージ：「収益の向上」

- ✓ 主力商品の売上拡大
- ✓ 市場シェアの拡大
- ✓ 顧客価値に重点を置いた商品開発
- ✓ プロモーションによる需要の創出
- ✓ 効率化、自動化の推進による生産性の向上

▶ ウィナーカテゴリーの販売拡大

- ・積極的なプロモーションによる市場シェアの拡大
- ・新形態、新フレーバー投入による販売拡大
- ・SNS活用による認知度向上



【燻製屋ウインナー】

燻製屋ウインナーならではの美味しさとブランド認知度の向上を図り、選ばれる商品を目指す

▶ 顧客価値の高い商品の開発・販売

- ・商品開発力の向上
- 多様化するニーズに応える商品開発



【たっぷり使える(エコパック)シリーズ】

環境への配慮や、使いやすさでお客様から支持される商品を育成する

▶ 生産競争力を強化

- ・主力品の増産体制整備
- ・コスト削減とDX化による生産性向上と品質向上

2. 中期経営計画／事業別戦略

調理加工食品：「売上の拡大」

- ✓ ニーズに合わせた商品開発
 - ✓ 簡便品や調理済商品のさらなる拡大
 - ✓ 冷凍商材の商品展開を拡大
 - ✓ 業務用市場の販路拡大
 - ✓ 新規販路の開拓
- ▶レトルト商品の販売拡大
- ・市販用,業務用など業態別の商品開発
 - ・既存品のさらなるシェア拡大
 - ・幅広い商品ラインアップを活かした新規販路の開拓

市販用



ビストロ倶楽部カレー スンドゥブ

業務用 (画像:イメージ)



フィリングの製造 業務用カレー・スープ

▶冷凍食品分野の拡大

- ・市販用商品の拡充
- ・付加価値の高い米飯商品の開発
- ・冷凍トレー惣菜の開発強化
- ・新規販路の開拓

▶業務用、外食向けの商品開発・販売拡大

- ・多様な商品力と幅広い販売網を活かし、規模の拡大を推進
- ・外食,中食,給食向け、調理の手間を削減した簡便性の高い商品の開発

▶デザート・飲料の販売拡大

- ・既存事業の育成と新しい付加価値の創造



安曇野食品工房(株)



トーラク(株)

2. 中期経営計画／事業別戦略

食肉事業

■ 三カ年売上計画

(単位：億円)

実績	中期三カ年計画		
2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
777	798	828	848

食肉：「事業領域の拡大」

- ✓ ブランドを活用した販売強化
- ✓ 新たな産地の開拓と育成
- ✓ 外食への商品開発, 営業の強化
- ✓ 産地と協力した調達の推進
- ✓ 付加価値を上げた商品提案

▶ ブランドを活用した販売強化

- SPENCER (USビーフ)
ITI(国際味覚審査機構)
三ツ星受賞



- YARDSTICK (豪州ビーフ)
厳格な基準に基づく高い品質



- 大麦仕上 さつまいも三元豚
ITI 三ツ星受賞

▶ 省人化・簡便ニーズへの対応

- 人手不足に対応した商品を拡充
- 一次加工商品の量販店・外食向け販売を拡大

▶ 展開エリアの拡大と 新規販路開拓

- (株)ミートサプライ
湘南工場 (2026年3月～)
- 丸大フード(株)
川崎営業所 (2026年4月～)
広島営業所 (2026年4月～)



(株)ミートサプライ湘南工場



丸大フード(株)川崎営業所

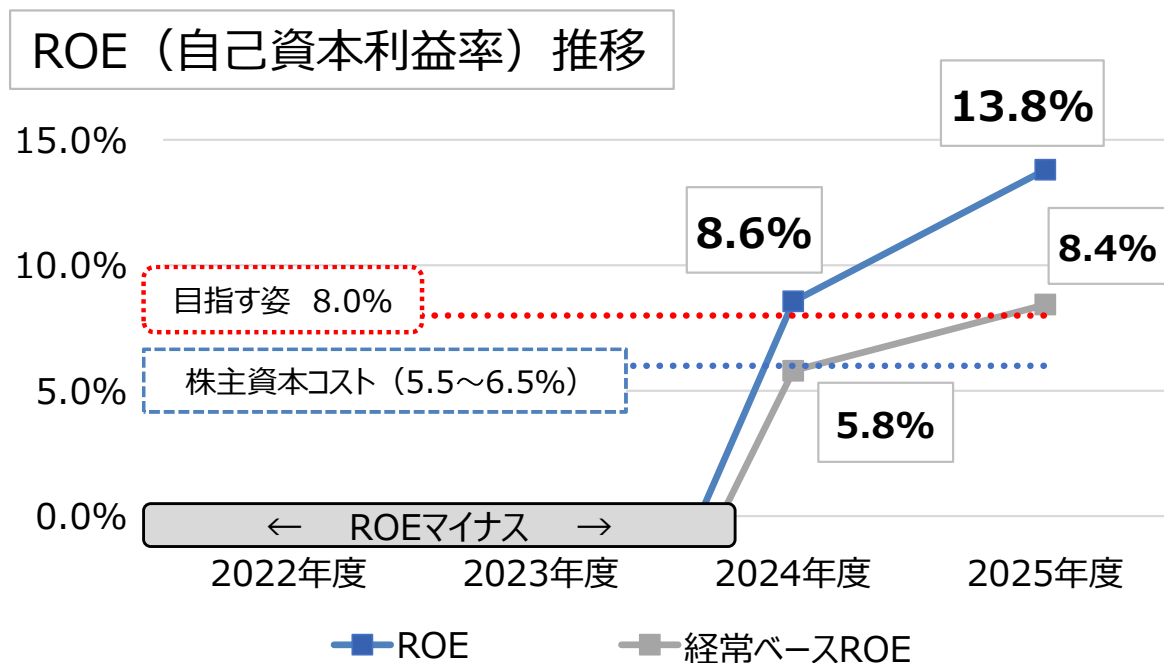
2. 中期経営計画／キャッシュアロケーション

規模の拡大・収益性の向上により営業キャッシュを創出し、
安定的な株主還元と更なる成長に投資していく

キャッシュイン	キャッシュアウト	投資計画
<p>営業キャッシュフロー 280億円</p>	<p>基盤,成長 投資 270億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓加工食品事業における規模拡大、成長カテゴリーへの投資 ✓設備投資による品質保全、合理化の推進 ✓M&Aによる事業規模の拡大、シナジーの創出 ✓研究開発の強化 ✓DX推進による生産性の向上、経営基盤の強化 ✓環境への対応、省エネ設備導入による効率化の推進
<p>投資・財務キャッシュフロー 50億円</p>	<p>株主還元 60億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓株主への安定配当 ✓株主優待の拡充

2. 中期経営計画／資本コストや株価を意識した経営

■ 振り返りと課題

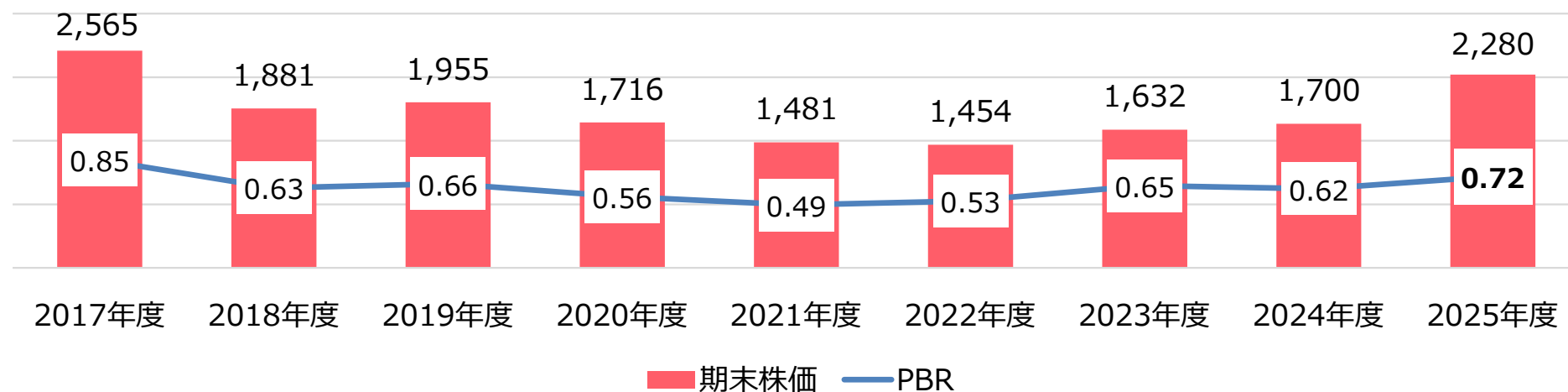


■ 振り返り

✓ ROEは13.8%と改善◎
(経常ベースROE8.4%)

✓ PBRは小幅改善△
資本コストも上昇傾向
ROE改善傾向の定着
が課題

PBR（株価純資産倍率）推移



2. 中期経営計画／資本コストや株価を意識した経営

■ 改善に向けた取組み状況

	改善に向けた取組み	2025年度 実績／今後の方針
収益力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期経営計画の実行 ✓ 生産性の向上 ✓ 成長に向けた資本の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・中計の最終営業利益目標を2年前倒しで達成 ・食肉加工場3拠点統合、養豚子会社解散 ・新中期計画の下、引き続き収益力向上に取り組む
資産効率の改善	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保有資産の見直し ✓ 政策保有株式の継続的な見直し ✓ 効率性を意識した設備投資 ✓ 成長に向けた資本の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休不動産 8物件の売却完了 ・政策保有株式は対連結純資産比20.4%まで縮減 2026年度中の追加売却により目標達成 ・ROE13.8%、不動産や有価証券売却影響を除いた経常ベースのROEも8.4%に改善
最適な財務レバレッジ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財務の健全性、格付の維持と最適な資本構成の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本格付研究所（JCR）の長期発行体格付／見通し「BBB+／安定的→ポジティブ」
株主還元の充実	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 安定配当継続と収益成長に応じた増配 ✓ 機動的な自社株買いによる総還元性向向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・配当方針を見直し、株主優待を拡充 ・期末配当 @70円/株、今期は@80円/株予想 ・自社株取得（上限13億円）を決定
I R 活動の充実と ESG 強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 株主との建設的な対話と経営への反映 ✓ 情報開示の充実 ✓ サステナビリティ取組み推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・機関投資家、証券アナリスト向け決算説明会開催、投資家との個別対話を実施 ・定期的に対話内容を取締役会にフィードバック

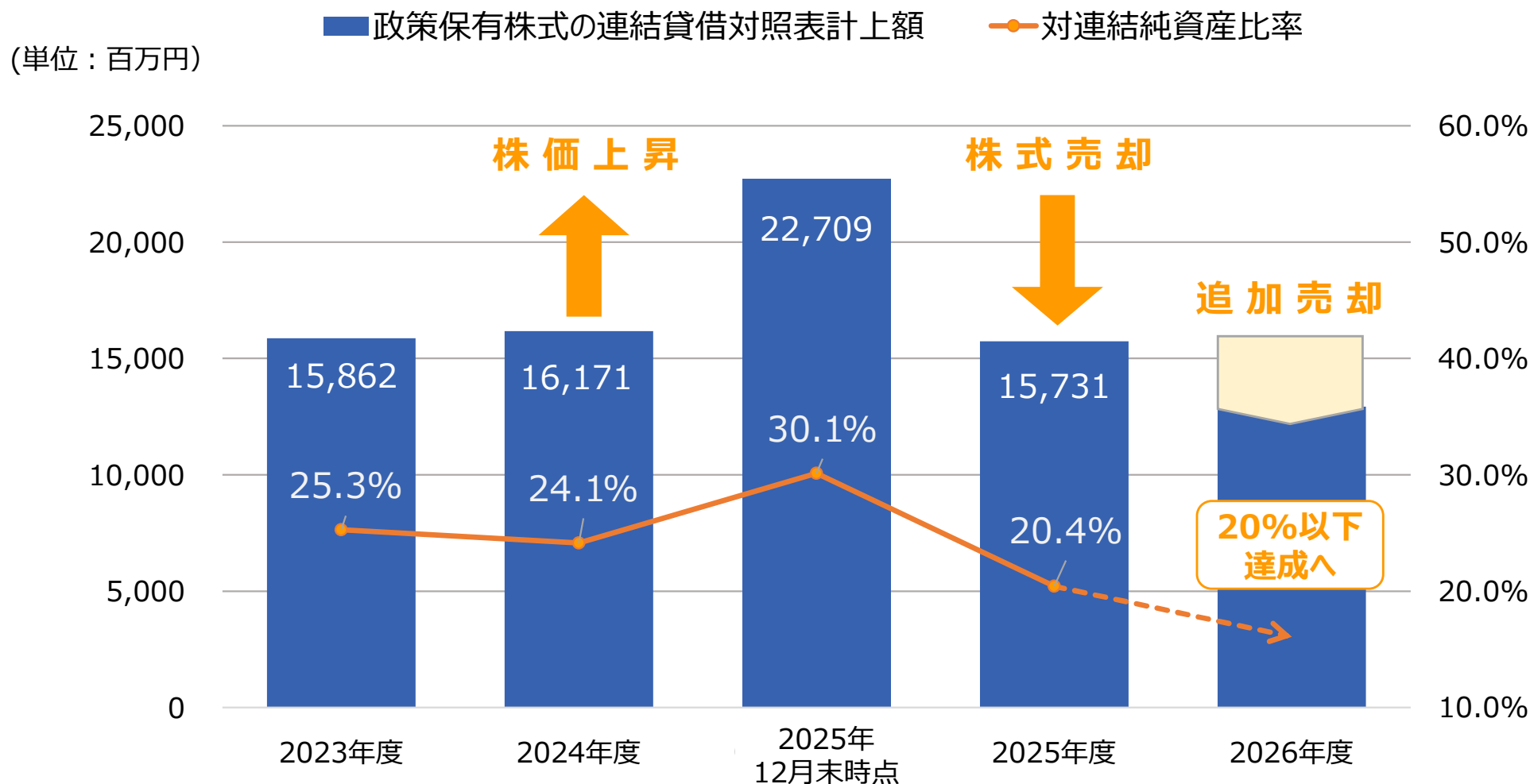
2. 中期経営計画／資本コストや株価を意識した経営

■ 政策保有株の縮減方針

政策保有株式の売却進めるも株価上昇により縮減目標（※）は未達
（※対連結純資産比率20%以下）



今期追加売却により
目標達成へ



2. 中期経営計画／資本コストや株価を意識した経営

■株主還元／配当方針

従来方針

- 安定配当継続
(1株当たり30円を下限)
- 総還元性向30%以上の維持を目標



新方針 (2026年度～)

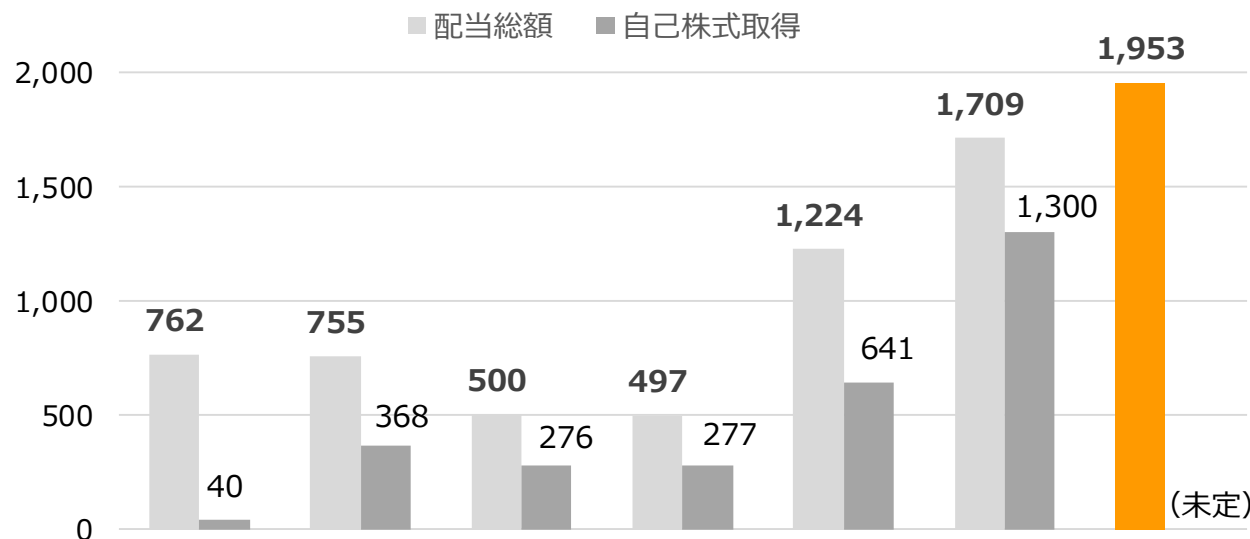
- 安定配当継続
(1株当たり30円を下限)
- NOPATの35%の配当水準**

※NOPAT = 営業利益 × (1 - 当社想定実効税率)

- 中間配当導入** (定時株主総会付議予定)

- ✓ 特殊要因に左右されない安定的かつ予測可能性の高い株主還元
- ✓ 利益還元機会の充実

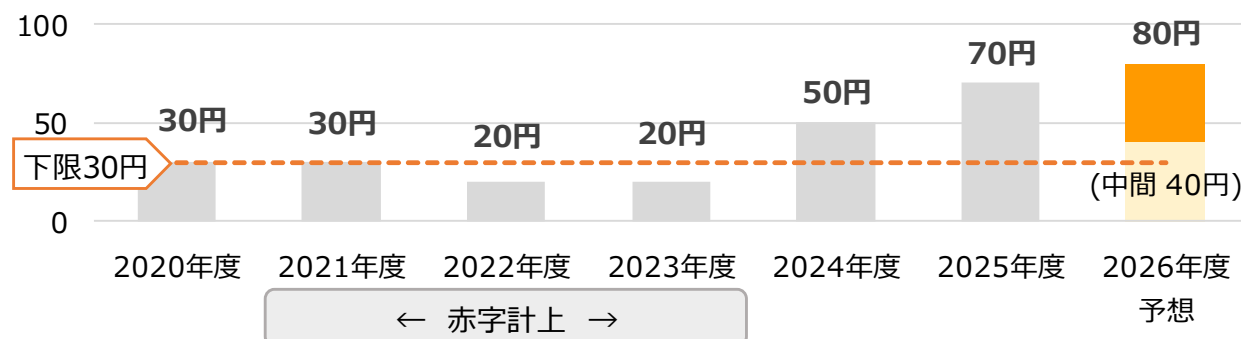
株主還元額推移 (配当総額と自己株式取得額) (百万円)



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 予想
配当性向	185.0%	-	-	-	22.3%	17.5%	30.5%
総還元性向	194.7%	-	-	-	34.0%	30.7%	未定

※〔配当総額 (+自己株式取得額)〕÷親会社株主帰属当期純利益で算出

1株当たり年間配当金推移 (円/株)



※2025年度の自己株式取得額は2026年2月公表の自己株式取得総額上限額を記載

3. 次なる成長に向けた取組み

研究開発力を活かした取組みの推進と
新たな海外市場への挑戦により、丸大食品
グループの新たな価値を創造する

- ✓ 新たな食の価値創造
- ✓ 品質向上とおいしさの追求
- ✓ 海外市場の開拓

▶ 高齢化への取組み

- ・脳機能サポート素材「鶏ムネ肉プラズマローゲン」
大学や研究機関との共同研究を実施、
世の中への普及を促進

人生100年時代を生きるあなたに

認知機能速度の維持と、
言語記憶力の維持に役立つ



Plasmax プラズマックス

▶ 植物性食品の開発と販路の開拓

- ・植物性たんぱく質を主原料とした代替肉の開発
- ・新たなたんぱく質素材の研究



植物性たんぱく質を主原料とした
代替肉を使用した調理例

▶ 研究開発による品質とおいしさの向上

- ・基礎研究を基盤にした品質、品位の向上
- ・美味しさを維持した長期保存可能な商品の開発

▶ 自社の強みを活かした販路の拡大、 海外新市場への参入

- ・長期保存可能な常温加工食品の販売拡大
- ・海外向け商品の開発推進
- ・M&Aやアライアンスによる海外市場の開拓

4. DXの推進

デジタル技術を活用した業務改革で、生産性の向上と安定かつ安全な業務基盤を構築する

✓ AI活用の推進

✓ 業務の効率化

✓ DXリテラシー向上

✓ セキュリティ強化

▶ AIの活用による業務効率化

- ・生成AIの活用拡大による生産性の向上
- ・AIを活用した需要予測の導入
- ・自社内データ基盤の構築と活用によるデータ分析の高度化と意思決定の迅速化

▶ AIエージェントの導入と活用

- ・AIエージェントによる業務代行、自律実行の推進
- ・複数システムを横断した業務処理の自動化

▶ 営業・生産現場でのDX推進

- ・SFA導入による業務効率向上
営業情報の一元管理
業務活動の可視化と管理体制の強化
- ・スマートデバイスを活用した業務効率化
- ・生産工場へAI検品カメラの導入による品質の向上

▶ セキュリティ強化

- ・セキュリティインシデント発生時における事業継続および早期復旧体制の整備
- ・セキュリティインシデントを想定した対応訓練の実施
- ・セキュリティポリシーの見直し

5. 人的資本の強化

成長実感を得られる仕事や、環境を提供し続けることで、人財の定着と活躍を支えていく

- ✓ 人財育成
- ✓ 多様な働き方の推進
- ✓ 健康経営への取り組み
- ✓ 従業員エンゲージメントの向上
- ✓ ガバナンスの強化

▶ 人財育成

- ・若手社員の育成（階層別研修の充実）
- ・次世代幹部候補人財の育成（選抜研修）
- ・自己啓発の推奨（通信教育の補助拡充）

▶ 多様な働き方、活躍する職場環境の整備

- ・複線型キャリアを想定した専門職制度設計
- ・ダイバーシティ推進、女性活躍推進に向けた取り組み

▶ 能力を発揮できる職場環境の構築

・健康経営の推進

丸大食品（単体）の健康経営の取組みが評価「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定



・仕事と子育ての両立支援

2005年より、ワークライフバランスの推進と、誰もが働きやすい職場環境づくり、次世代育成支援に取組みを継続

子育てサポート企業として8回目の「くるみん認定」を取得



・企業経営について客観性・透明性を高めるため、委員会を設置してガバナンス強化
コンプライアンス委員会（委員長は独立社外取締役）
指名報酬委員会（独立社外取締役が過半数）

・全従業員に「丸大食品グループ行動基準」を周知徹底し、毎月コンプライアンス教育を実施

6. サステナビリティの推進

社会や環境に配慮した事業活動を通じて、
持続可能な社会の発展に貢献していく

- ✓ 気候変動への対応
- ✓ 環境保全への取組み
- ✓ 食を通じた貢献
- ✓ 社会的責任の遂行
- ✓ 社会貢献活動、環境活動

▶ 温室効果ガス削減の取組み

2024年度実績：105,645 t-CO₂

2030年度目標：77,760 t-CO₂

- ・非化石エネルギーの活用や省エネルギー設備導入による環境負荷低減
- ・省エネルギーシフトなど、物流、輸送に係わる温室効果ガス削減の取組み強化

【太陽光発電設備導入】

11工場 3事業所（2026年3月時点）



丸大食品(株)岩手工場 2月～



戸田フーズ(株)追浜第2工場 2月～



(株)マルシンフーズ栃木工場 3月～

6. サステナビリティの推進

▶環境保全の取組み

- ・食品廃棄物排出量削減

食品廃棄物再生利用実施率目標

2024年度実績：90.1%

2030年度目標：95.0%

- ・水使用量（原単位）削減
- ・プラスチック使用量削減

▶社会的責任の遂行

- ・気候関連情報開示のフレームワーク（TCFD）への対応
- ・生物多様性の保全
TNFDへの取組み
- ・人権への対応
人権デュー・ディリジェンスの取組み

CDP[気候変動レポート2025]で「B」スコア評価を獲得



▶資源循環型社会への貢献

- ・包装・容器の軽量化による廃棄物削減の推進
- ・包装・容器の3R推進
（リデュース、リユース、リサイクル）
- ・食料品廃棄物の飼料や肥料へのリサイクル促進
- ・環境に配慮した包装・容器採用の推進



環境コミュニケーションマーク

「エコですこやか食生活」

環境に配慮したパッケージ資材の商品にマークを表示

- 包材サイズ・束テープサイズ変更によるプラスチック使用量削減
- 包装の厚みを薄くし、プラスチック使用量削減
- 表面に紙素材を使用した包材でプラスチック使用量削減
- 再生PETを使用した包材
- 環境に優しいバイオマスインキ（植物由来）を一部使用
- ギフト用包装箱を小型化し廃棄物を削減

シンプルな包装形態



紙素材パウチ



再生PET使用



バイオマスインキ使用



©PUPPET SUNSUN/PS committee

6. サステナビリティの推進

▶環境に配慮した企業活動

- ・環境美化活動
- ・店頭資材など環境への配慮
- ・ペーパーレス化の推進



本社所在 高槻市での清掃活動

▶森林保全活動

- ・丸大里山の森づくり活動
(大阪府や高槻市などとアドプトフォレスト制度を締結)
- ・「丸大那須の森」里山活動
- ・「丸大みよしの森」緑化活動



丸大里山の森づくり活動

▶スポーツコミュニケーション

- ・スポーツ教室の実施、スポーツイベントのサポート
- ・TEAM JAPANオフィシャルサポーターシップによるスポーツ振興支援



食のチカラで、夢に挑もう。



丸大食品はソウル1988オリンピック以来、長年によりオリンピックに出場する日本代表選手団「TEAM JAPAN」を応援し続けております。

私たちは「食を通じて人と社会へ貢献する企業」として、多様な人の健康な心と体の成長を支えることを使命とし、オリンピック・パラリンピックに挑む選手たちを支えることで、夢と感動を社会全体に伝え、食とスポーツの力でより多くの人々が勇気を持つよう、貢献してまいります。



▶食を通じてのコミュニケーション

- ・「よりよい食生活」をテーマにした社会貢献活動
- ・食育イベントへの参加、お料理教室の開催
- ・ホームページでの情報発信
- ・行政と連携した情報発信
- ・子ども食堂への支援（商品提供）
- ・子育て支援（くるみんマーク使用商品）

【くるみんマーク使用商品】



お弁当の赤ウインナー



チキンハンバーグ



楽しいお弁当
ミートボール



※商品パッケージにくるみんマークを使用することで、次世代育成支援の周知に努めています。